



緑肥・緑化の部屋 1

～環境保全の実践を目指して～

タキイ種苗(株) 営業部 緑化飼料課

緑肥は減農薬、減肥料の時代に対応するアイテムとして、生産者の常識となってきました。また、生活環境の緑化を担う芝草は、エコロジーの時代、豊かな緑の空間に欠かせないものになっています。しかし、その効果的な使い方は意外と認識されていません。このコーナーでは、こういう場面でこういう緑肥・芝草を使えば役立つといったことを毎回お伝えするつもりです。第1回目は緑肥解説の前段として、C/N比（緑肥作物の分解のされやすさ）について説明します。

Q 緑肥作物の「土の中での分解のされやすさ」は、種類によってどのように違いますか？

A 同じ緑肥作物でも、クローバなどのようにやわらかくて分解されやすいものと、反対に麦わらのようにかたく、なかなか分解されないものがあります。その程度を表す指標として、C/N比（シーエヌ比・炭素率）というものがあります。これは有機物（緑肥作物）の中に含まれる炭素（C：carbon）とチッソ（N：nitrogen）の割合を示したもので、クローバなどではこの値が低く、逆に麦わらなどは高いということになります。



↑C/N比の低いアカクローバ。写真は「ホクセキ」。



↑C/N比が15～38のえん麦の中には各種センチュウ類の抑制に利用されるものもある。写真は「ネグサレタイジ」。

このC/N比を基準に、後作の野菜などの減肥量を算出することができます。

一般に、タマネギなどチッソの要求量大きい作物をつくる場合は、その前にすき込む緑肥にはC/N比が低く、有機物が早く分解されてチッソが放出されやすい（無機化されやすい）ものがおすすめで。逆に、ダイズではC/N比の高いえん麦などが、チッソ分が土中に少ない分、根粒菌のチッソ固定作用が発揮されて着生が促進し、よい結果が得られます。

各種作物のC/N比（参考値）

作物	C/N値	作物	C/N値
アカクローバ	10~16	ソルガム	34~41
ダイズ	14~15	ヒマワリ	13~40
ヘアリーベッチ	10~11	シロカラシ	12~26
ナギナタガヤ	約20	稲わら	48~75
えん麦	15~38	モミガラ	72~80
トウモロコシ	20~35	麦わら	約90
トウモロコシ(桿)	約45		

Q

きが
チッソ飢餓とは何ですか？

A

C/N比が高い（20以上）有機物が土壌中にすき込まれると、土壌中の微生物がそれを分解するために多くのチッソを必要とします。このような状態のことを「チッソ飢餓」といい、そこに野菜などの後作物が栽培されるとチッソ欠乏の症状が出てしまいます。対策としては、石灰チッソなどのチッソ肥料を施用して有機物の分解を促すことが推奨されます。

